

1. 基本情報

評価対象年度 ( 令和4 年度)

施策コード	121	施策名	市民活動の支援
将来像	1	安全でうるおいのある暮らしができるまち(「暮らし」の分野)	
まちづくりの基本目標	12	生きがいを持って文化的に生活できるまち	
主担当部	地域振興部	主担当課	市民協働課

2. 施策の方向

10年後の姿	地域の課題を解決するための市民活動がさまざまな分野で活発に展開されています。また、そうした活動に幅広い世代の市民が積極的に参加しています。		
施策の方向性	1	市民活動の活性化を支援します	
	2	市民活動への参加を促進します	

3. 構成事業の状況

(単位:千円)

事務事業名	施策の方向性	担当課	令和4年度決算額
市民協働推進事業	1, 2	市民協働課	10,567
総事業費(施策の合計)			10,567

4. まちづくり指標

指標情報				令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	
①	名称	この一年でボランティア活動や地域活動に参加したことがある人の割合		目標値	29.0	29.0	25.0	25.0	25.0
	説明	—	単位 %	実績値	17.1(※)	17.1(※)			
	抽出方法	市政世論調査(令和2、5、8年度実施)		達成率	59.0%	59.0%			
②	名称	住んでいる地域に対して何か貢献したいと思う人の割合		目標値	58.0	58.0	60.0	60.0	60.0
	説明	—	単位 %	実績値	52.7(※)	52.7(※)			
	抽出方法	市政世論調査(令和2、5、8年度実施)		達成率	90.9%	90.9%			

※①②抽出方法が世論調査のため、令和2年度の実績を記載している。

5. 評価(令和4年度実績に対する)

評価基準	評価※	評価理由
投入財源・成果(「3. 構成事業の状況」「4. まちづくり指標」)に対する評価	総合評価(成果、投入財源等を総合的に評価) 維持	<ul style="list-style-type: none"> <li>●ボランティア・市民活動の動向に着目し市民活動に関する有益な情報を多様な媒体を使い収集、発信した。</li> <li>●幅広い世代の新たな活動の掘り起こしや、市民活動の支援に繋がる講演会・学習会を実施した。また活動メンバー同士のコミュニケーションが円滑に行えるようオンラインのフォローアップも行った。</li> <li>●市民活動の中間支援機能を担う市民活動センターの運営は、清瀬市社会福祉協議会に委託し、市民活動を支援する市民活動センターとボランティア支援を行うボランティアセンターが連携・協働し従来事業の拡充を図るなど一体的な運営を実現している。</li> <li>●コロナ禍により生じた市民活動団体等の活動停滞に対し新たな解決の取り組みや活動継続の支援のため「地域課題解決事業補助金事業」を実施した。</li> <li>●東京都及び東京都つながり創生財団と連携し「まちの腕きき掲示板事業」を実施した。</li> </ul>

※順調「10年後の達成に向け」、「構成事業の状況」や「まちづくり指標」の進捗が順調に推移している  
維持「10年後の達成に向け」、「構成事業の状況」や「まちづくり指標」の進捗に一部課題がある  
停滞「10年後の達成に向け」、「構成事業の状況」や「まちづくり指標」の進捗が遅れている

6. 施策を取り巻く環境

令和4年度からの変更点	自治会での身近な防災や見守りなど企画から実現までサポートするため、東京都及び東京都つながり創生財団と連携して「自治会おなやみ相談会」を開催する。
-------------	--

7. 施策を進める上での課題

①	施策を進める上での課題	「まちの腕きき掲示板」を活用するにあたり、市民活動センター職員と市職員がコーディネーターとなり連携して運用する必要があるのであるため、調整が必要がある。
	課題に対する令和6年度以降の取組	「まちの腕きき掲示板」を活用した自治会・円卓会議等、地域コミュニティ活動の支援について検討する。
②	施策を進める上での課題	コロナ禍により活動場所が減少し活動意欲も失われる傾向がある中、より市民に広く市民活動に関する情報を届け、講座やイベント(オンライン開催)または補助金支援などを通じ市民活動に関わるきっかけや活動する上で有益な情報を提供する必要がある。
	課題に対する令和6年度以降の取組	多様な活動ニーズを把握し、より広い市民活動やボランティア活動の考え方を提示できるようにする。また、オンラインを活用したつながりづくりの創出にも努めていくとともに活動団体の協力を得て学びや体験の場を増やしていく。